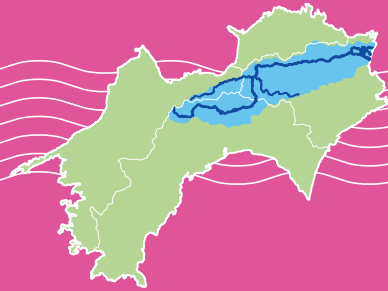


恵みの川 されど暴れ川

Our よしのがわ



2017.4
Vol.11

国土交通省 徳島河川国道事務所 発刊



春だ！吉野川

美濃田の淵に咲く桜

■Vol.11コンテンツ

【連載】

- 吉野川お散歩紀行 ～水都徳島市をめぐる春の旅～ (案内図 ①)
- 吉野川で遊ぼう!! ～吉野川カヤック! ③ 柿原堰から河口(海)まで!～
- 吉野川歴史探訪 ～覚円騒動 [前編]～ (案内図 ②)
- 市町村長に聴く ～水害を我がこととしてとらえる～
《第6回 泉鳴門市長に聴きました》
- 吉野川講座 (そうだったのか!? 河川管理 ～河川巡視編～)

【事務所だより】

- 吉野川・那賀川合同総合水防演習
～5月21日に開催します～
- 中島地区河川防災ステーション(美馬市) (案内図 ③)
の整備計画が承認されました!

【現場だより】

- 河川植生の敵! アレチウリ駆除作戦 (案内図 ④)

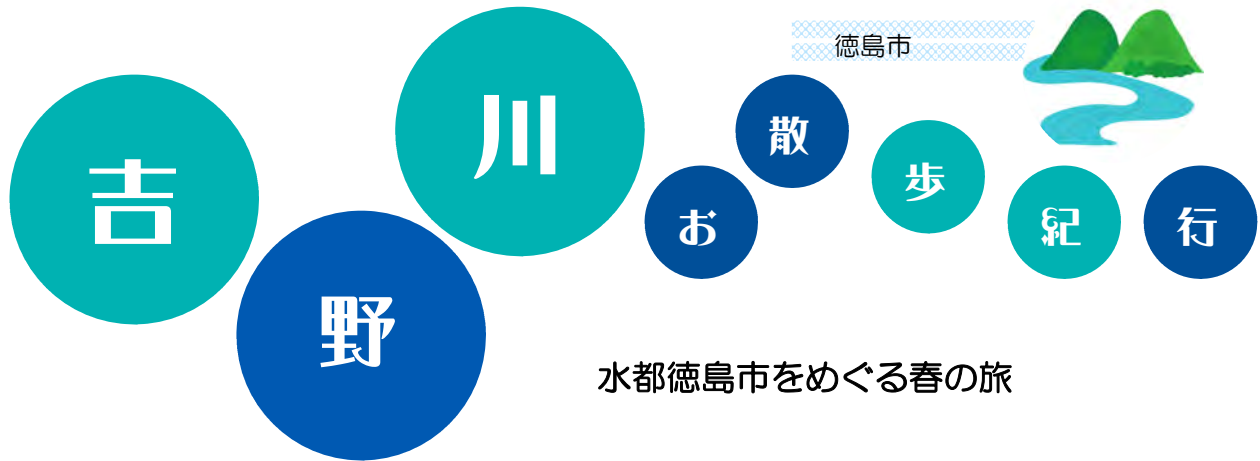
【イベントだより】

- 第10回とくしまマラソンに参加して
- 地域コミュニティの活性化と防災力を高めよう! (案内図 ⑤)
～【吉野川流域講座】漏水対策工事の現場見学会を開催～

☆「Ourよしのがわ 恵みの川 されど暴れ川」
平成28年度四国地方整備局優秀広報表彰受賞!

【案内図】





水都徳島市をめぐる春の旅

高知県瓶ヶ森^{かめがもり}から始まる吉野川。全長194kmの長い旅を経て紀伊水道に流れ込む。河口の川幅は、1.3kmにもなり、春になると潮干狩りやウインドサーフィンを楽しむ人も多い。

その河口の町が徳島市だ。町の中心を流れる新町川。江戸時代には、吉野川を行き来する平田船が県西部から、木炭、煙草、薪、藍玉などを運び、多くの船が行き来した。川沿いには、藍の染料を保管する藍蔵が立ち並び、多くの藍商人たちで賑わった。

「全国に水都といわれるところは、数々ありますが、徳島市は本当に水と人の距離が近いですよ」とNPO法人徳島ツーリズム協会 代表理事 黒田忠良^{くろだ ただよし}さんは言う。

水もぬるんできた温かい春の日、水都 徳島を探訪した。

徳島市のシンボル、眉山^{びざん}と新町川



観光まちづくりで徳島を元気に NPO法人 徳島ツーリズム協会 代表理事 黒田 忠良さん

まさに徳島の観光の生き字引的存在。行く場所すべてで、徳島の歴史や文化、地元の人も知らないようなエピソードなどをずっと笑顔で紹介してくれた。

「今回は、水都徳島の魅力を感じることが目的なので、周遊船に乗りましょう」と早速、NPO法人新町川を守る会が運営するひょうたん島周遊船へ。

徳島市内には大小138の河川が流れ、国土交通省は徳島市を「水の郷百選」に認定している。周遊船でめぐる新町川と助任川に囲まれた中洲は、上から見るとその形がひょうたんのように見えることから「ひょうたん島」ともよばれ親しまれている。1周約6km、約30分のクルーズだ。



助任川から眺める徳島中央公園北側の蜂須賀桜並木。江戸時代、徳島城内で藩主に愛蔵されていた。3月上旬に一足早い春を感じることができた。

出発すると徳島市のキャラクター、新町川にすむ魚の妖精「トクシィ」のテーマソング♪みんなあつまれトクシィのまち♪が聞こえてきた。軽快な音楽を聞くと、素敵なことが周遊船めぐりで起きるようなワクワク感に浸ることができる。出発すると、川側から眺める橋や風景、藍や舟運で発達した徳島の歴史



や偉人についてなど、音声によるガイドが流れてくる。実は、この音声ガイドの声の主が黒田さん。長年ラジオ・パーソナリティとしても活躍されている。軽快な案内でより一層、徳島の水辺の魅力を見て肌で感じることがができる。この音声ガイドが流れ始めたのは今年の3月上旬から。NPO法人徳島ツーリズム協会とNPO法人新町川を守る会の連携で実現した。もちろん、この日はご本人の生の声による案内もしていただいた。



県庁前のヨットが係留されている「ケンチョピア」水の都徳島を感じる風景だ。



船から眺める風景。魚や渡り鳥も間近に見られる。



何度乗っても、毎回、新しい発見があり、四季折々に見える眺めや川から受けながら、徳島市が豊かな自然に恵まれていることを実感する。これから暖かくなると、エイに遭遇できる確率も高いとか。

「他にも水の都といわれる場所がありますが、徳島市は本当に生活している場所と、水辺に近いんです。きれいな水辺に親しめることができるのも大きな魅力の一つです」という黒田さんの言葉が印象的だった。

自分たちだからこそできること

「地元徳島の良さを、より多くの方々に伝えたい」との思いから、平成23年6月に設立されたNPO法人 徳島ツーリズム協会。現在会員は23名。観光事業者や自営業者、観光ボランティアガイドなどさまざま。

大切にしているのは四国遍路の「おせっかいのおもてなし」の気持ち。

ツアーの形態も様々。徳島市や隣接市町村をめぐるツアーには「地域のおいしい特産品を食す」「農村舞台などの伝統を知る」「藍や徳島市のまち並みからわかる歴史」など、それぞれテーマがあり、バスで行く観光だけではなく、まち歩き、ウォーキング、電動サイクルでめぐるツアーなど、徳島ツーリズム協会ならではのラインナップがあり、スタッフがたっぷりと案内してくれる。案内する話題は尽きないので、お客様に30分がいいのか1時間がいいのかなど、希望時間を聞いているとか。

吉野川に関連したツアーでは、徳島駅を電動サイクルで出発し、大河吉野川を眺め、阿波しらさぎ大橋を渡り、阿波十郎兵衛屋敷を訪れる「吉野川横断と阿波人形浄瑠璃」を楽

しむコース。水と文化をめぐる電動サイクルツアー「西国三十三観音ミニめぐりと吉野川の恵みツアー」などさまざま。この吉野川の恵みツアーの昼食で用意されているお弁当は、その名も「極上すじ青のり弁当」。色々な方々の協力のもと、徳島のことを知り尽くした徳島ツーリズム協会だからこそ実現できたお弁当だ。徳島県外の方はもちろん、地元の県民が参加しても魅力的なツアーが数多く用意されている。

「これからは、吉野川での野鳥観察会や力又体験など、川での遊びも含めた川の魅力を再発見するツアーなども開催したい」と黒田さん。今後も楽しみだ。



吉野川橋にまつわる話。吉野川の恵みが育んだ産業についてなど次から次へと話してくれる。



徳島ツーリズム協会HP

サンセットクルーズに関する写真提供
NPO法人徳島ツーリズム協会

4月～6月限定 サンセットクルーズ

吉野川の雄大さを感じられる期間限定のツアーが企画されている。吉野川から望む夕暮れの大パノラマと新町川を彩るLEDアートを鑑賞する約1時間のクルージング。徳島ならではの和菓子と飲み物付き。

- 実施日:4月～6月の毎日（潮位の都合で運行不可日あり）
- 集合場所：新町川水際公園「ひょうたん島周遊船のりば」
- 集合時間：4月/午後5時30分 5～6月/午後6時
- 所要時間：1時間
- 旅行代金：お一人様1,500円
- 最少催行人数：1名様より **申込は当日12時まで**

お申込み・お問合せ先：NPO法人徳島ツーリズム協会
〒770-0833 徳島市一番町3丁目29-2

TEL&FAX：088-622-8214 携帯：090-2784-6416

E-mail：info@toku-ta.jp



住んでいる人が楽しいまちへ NPO法人 新町川を守る会 理事長 中村 英雄さん

平成2年に有志10名が集まり月2回の川の清掃活動から始まった「新町川を守る会」。現在の会員は約300名。河川の清掃活動、周遊船の運行、水辺でのイベント、吉野川源流域での植樹など活動は多岐に渡る。毎月最終金曜日の水際コンサートは大晦日が金曜日になっても実施。イベントを定着させることが大事だという。「住む人が楽しい町だと、来る人も楽しくなる。町全体を楽しい場所にしたいと考えています」と中村さん。四季折々に花がいっぱい町にあったらみんなに喜んでもらえると、徳島の中心市街地を花いっぱいにする「とくしままちなか花ロードProject」を実践。外国人を含む多くのボランティアが参加している。吉野川に関しては、「人と人とのつながりで吉野川流域全体が『吉野川まるごと博物館』になったらいい。それぞれの地域に吉野川を案内する学芸員がいて、案内してもらえると。吉野川流域全体で連携してできたら」とも。

そして、中村さんの夢は、世界から船が徳島を訪れるような「海の駅」ができること。水都徳島を世界の人々が集まる交流の場にしたい。夢は大きく広がっていく。



周遊船を、ディズニーランドのようにワクワクするものになりたいと中村さん。

平成28年度のひょうたん島周遊船の乗船数は約6万人。外国からのゲストも1割を占める。国内外問わず多くの人々が訪れている。

ひょうたん島周遊船



周遊船乗り場

乗船料：大人200円 小ども100円（保険料のみ）
運行時間：定期便は11:00から40分間隔。
（最終15:40出航）毎日運行（1月1日は休み）
7月と8月は17:00から40分間隔で出航するナイトクルーズも実施。（最終19:40出航）
8月12日～15日9:00～22:00
（15分間隔で運行）
受付場所：新町川水際公園ポートハウス前
（両国橋北詰）
問合せ先：NPO法人新町川を守る会
TEL:090-3783-2084



吉野川から始まるストーリー 輝く宝石を全国へ発信

「文化ってね、何を大切にしたいか、何を美しいと感じるか、どんな町にしたいか、どんな暮らしをしたいか、そんな思いがあふれたものだと思うんです」と言う佐藤さん。「新町川だって、以前はゴミが散乱し水も汚かったです。美しい水辺を取り戻したいと新町川を守る会の中村さんが立ち上がって、清掃活動をしました。その結果、水辺が整備され周遊船も出て、マルシェが開かれたりして、水辺が暮らしに取り入れられるようになりました。中村さんの思いから水辺の文化が生まれました」

吉野川と人形浄瑠璃は、大きな関わりがある。

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 事業課長
公益財団法人 阿波人形浄瑠璃振興会 事務局長
佐藤 憲治さん



ふとさお 太棹三味線の伴奏と、たゆう 太夫が物語を語る浄瑠璃、三人遣いの人形芝居、この三者によって演じられる人形芝居が阿波人形浄瑠璃。阿波十郎兵衛屋敷では、毎日人形浄瑠璃『傾城阿波の鳴門』を上演。写真提供：徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

毎年氾濫する吉野川が運んだ肥沃な土壌から阿波藍が栽培され、その阿波藍によって、藍商人たちは莫大な富を得た。その財力を背景に商人たちは、阿波藩の領地であった淡路島から人形座を頻繁に徳島に呼んで県内で興行した。ここから、徳島県に人形浄瑠璃文化が発展したのだ。私たちが暮らす徳島には、風土や歴史を背景に長年育まれてきた文化があり、その文化こそが地域の個性や魅力となる。

「文化で町を変えたい」佐藤さんの思いは、人形浄瑠璃の伝承や発展だけにとどまらない。吉野川から藍、そして浄瑠璃へとつながるストーリーをもとに、2014年には、徳島市の新町川から吉野川を遊覧し、十郎兵衛屋敷で人形浄瑠璃を鑑賞後、藍染め体験を行うツアーを開始した。徳島の食材をふんだんに使ったお弁当もついている。まさに吉野川の自然の魅力に触れ、吉野川が生んだ文化に触れるツアーで、参加者には好評を得ている。



徳島じょうりクルーズは、4月～10月の毎週日曜日。（7月30日、8月13日を除く）お問い合わせ・お申込みは、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷まで。

写真提供:NPO法人徳島ツーリズム協会



左から、佐藤憲治さん、運営スタッフの森住孝義さん、三好理加さん、駒田早智さん。



徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 ●●●●●

〒771-0114

徳島市川内町宮島本浦184

TEL:088-665-2202 開館日、休館日等はHP参照。

入場料: 一般410円、高・大学生300円、小・中学生200円

『じょうり』とは、もともと美しい宝石を意味する言葉だそうだ。「阿波人形浄瑠璃も吉野川も阿波藍もみんな美しい宝石、それらがタッグを組んで魅力を発信することで、大きな力になるのでは。スジアオノリだって、なると金時だって、吉野川が生んだ宝石でしょう」と佐藤さんは言う。吉野川の歴史から育まれた伝統文化、吉野川から生まれた産物、本当に吉野川はなんと素晴らしい宝物を生み出しているのだろうか。新たな形で人形浄瑠璃の魅力を再発見してほしいと、人形とチェロなど、他分野とのセッションも積極的に行う。そこにしかないもの、地域の魅力を大切にしながら、スタッフとともに佐藤さんの奮闘は続く。

徳島ツーリズム協会 黒田さん、新町川を守る会 中村さん、そして佐藤さんにつながった今月号。人と人とのつながりもまた、新しい文化を生む。

吉野川で遊ぼう！！

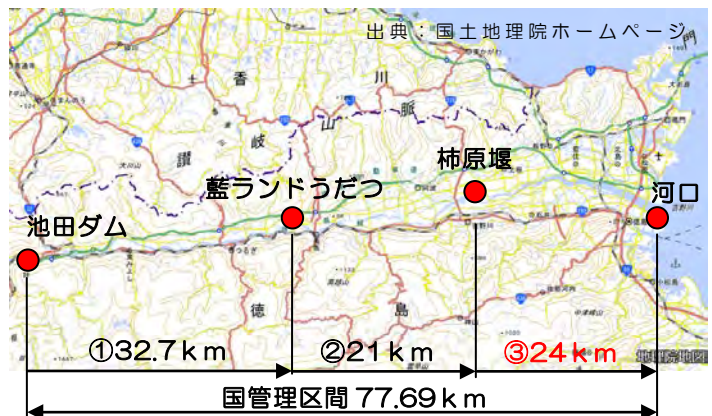


柿原堰下流左岸（徳島県阿波市）

こんにちは。川遊び大好きアクティブ系河川管理者「遊び人のM」です。
吉野川で遊ぼう！！では、自ら体験し、川を楽しみ、感じたことを発信します。
第9回は「吉野川カヤック③ 柿原堰から河口（海）まで！」です。



天気よし！風なし！好調にスタート



吉野川でカヤックをしてみたい！と思っても、やるとなるとなかなか難しいのが現実です。
道具一式を揃えられたとしても、川に限らずアウトドアには危険がつきものですし、正しい
知識や準備が必要となります。

気軽に楽しんでみたい！とにかく一度やってみたい！方は、四国地方整備局河川協力団体
第1号のスポーツクラブ「AMEMBO」がカヤック体験を開催しています。子どもから大人
まで、今まで知らなかった水遊びの楽しさを味わえますよ。

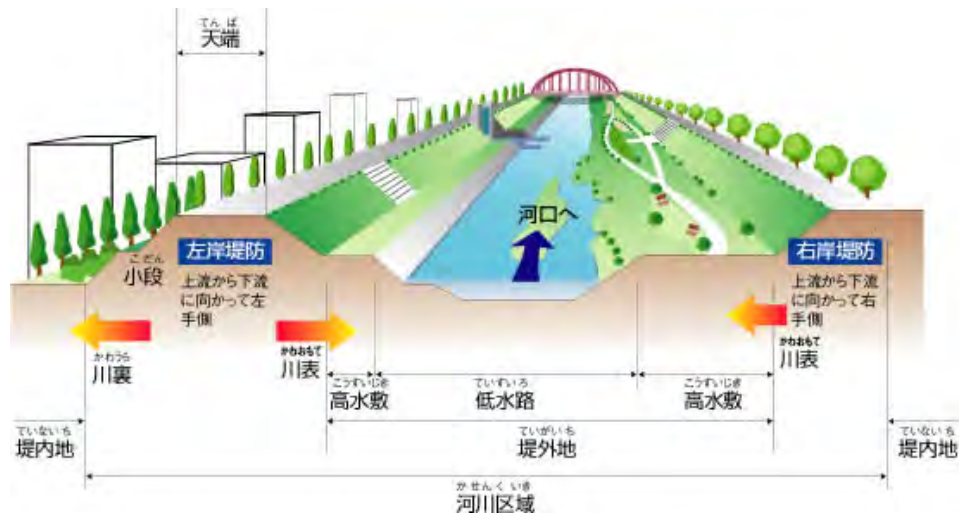
（吉野川河畔ふれあい広場（美馬市） <http://amembo.net/> TEL0883-55-2105）

他にも、いろいろな団体がカヤック体験、水遊び体験を企画していますので、インターネ
ットなどで探して、今年の夏は吉野川カヤックにチャレンジしてはいかがでしょうか？

いよいよ吉野川カヤック最終章。

柿原堰下流左岸からのスタートです。

左岸？右岸？ 北岸？南岸？



ポイント

上流から下流を見て（川が流れている方向を向いて）右が右岸、左が左岸。簡単です。

「柿原堰下流左岸集合！」と言われて、左右岸を間違えると、対岸でひとりさみしく待つこととなります。川でかっこよく遊ぶためにも左岸・右岸を覚えましょう。

吉野川では「北岸（＝左岸）」「南岸（＝右岸）」と使う人がいます。これは東西に長く、まっすぐ流れる吉野川ならではの呼び方です。

3月末、菜の花満開の中、柿原堰（阿波市）から河口までの24 kmを漕いできました。今回のメンバーも、まじめな友人N、自由人Wの3人。少し肌寒かったですが、水は透きとおりで、天気良しでした。一年で最も川の水が澄んでいるのは冬の季節です。

※体験レポート（まじめな友人N）

吉野川をカヌーで河口まで制覇する夢を達成することが出来ました。

カヌーを始めて、

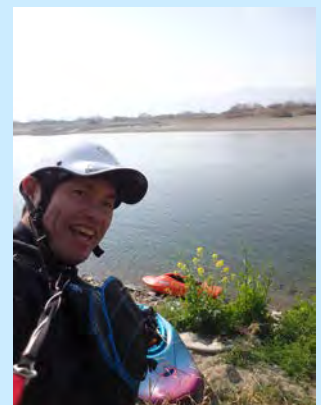
平石川、地藏寺川、汗見川と吉野川の上流区間。

早明浦ダム直下から大歩危、小歩危の激流区間を漕ぎ。

そして、今期の池田ダムから河口までの雄大な区間と吉野川を一通り漕ぐことが出来たということで、とても達成感があります。

今回の第十堰から下流は本当にきつかったです。流れが激しくないのでのんびりとして良いのでは？と思うかもしれませんが、進まないんです。休憩していると風で上流に戻されるし、漕いでも漕いでも遠くの橋が近づいて来ません。他の川とはスケール感が違いますね。

他にも第十樋門から旧吉野川に流れる水の水速に驚いたり、エイが



泳いでいたり、鮎の稚魚が元気に魚道を上っていたりと楽しみながら下りました。



一面に咲く菜の花も気分が上がります。河口では海からの波乗りも楽しめました。

そしてやっと到達したゴールの感動を味わうどころか足腰がフラフラで笑っちゃいました。

誘ってくれた遊び人の M さん、一緒に漕いでくれた仲間に感謝です。

そして吉野川ありがとう。

まじめな友人 N は、カヤックの時は本当にまじめです。

カヤック初心者連れて川にでると、カヤックの準備から、パドルの使い方、沈したときの脱出方法まで、丁寧にやさしく指導します。仕事もまじめにしてくれると助かります。

✧吉野川カヤックダウンリバー報告書（自由人 W）

コース：柿原堰～吉野川河口

タイム：9:00～16:30

「いつかは池田から徳島まで漕いでみたい・・・。」
徳島で生まれ育った人間として、一つの夢が叶いました。
今回の企画がなければ、きっと実現できないままだったことでしょう。



残暑の残る秋から漕ぎ始めた池田ダムからの吉野川ダウンリバーは、肌寒い3月にゴールである河口までたどり着きました。

今回のスタート地点の柿原堰に集合し、いつものようにトロ場漕ぎを開始しました。カヤックから眺める風景はどこまでいっても土手ばかりで、進み具合の手がかりは、吉野川に架かる橋の数を数えることぐらい。



第十堰では、ピクニックしている家族や散歩しているご老人とカヤック談義をしつつ、お昼ご飯を食べ、後半戦へ。

びっくりしたのは、第十堰下流の川の水を舐めるとしょっぱかったこと。河口から14kmの間がほぼ海水だったことです。今年の夏は、吉野川下流で気軽に海水浴はいかがですか？

吉野川下流も風景に変化はなく、スジアオノリの養殖ネットを眺めながらゴールを目指す。最後の目印である白鷺大橋を超えた先に憧れ

の大海原が・・・と思っていたら、高速道路の橋桁を打ち込む工事船舶がたくさん。

ゴールは見えているのに、引き潮による中州に行く手を塞がれ、最後の最後まで遠回り。

やっとこさたどり着いた時には、心はヘトヘトで身体はベトベトでした。

このような貴重な経験を与えていただきました国土交通省徳島河川国道事務所のM様、漕ぐときには、いつも温かく誘ってくれるN様、本当にありがとうございました。

いつか開催されるであろう「第2回吉野川ダウンリバー」への参加は考えさせて下さい(笑)



合計4日間で吉野川の国管理区間（池田ダムから河口）をカヤックでくぐりました。がんばれば3日でもなんとかなる距離です。下流に行くほど、川の流れがゆっくりになるので、のんびりくぐるなら4日でもよい感じです。

今回のコース24kmは、経験者3人で休みなく漕いで7時間半。途中3人とも無口になりました(笑)。第十堰より下流になると、川幅が1kmくらいあるので、ちょっと対岸を見たいと思っても、とても行く元気がありません。シーカヤックとかファルトボートと呼ばれるツーリング用のスピードが出るカヤックがより楽しめると思います。

今回で、吉野川の国管理区間カヤックは終了です。十分堪能しました。旧吉野川や今切川、新町川も楽しそうですね～



「吉野川は楽しい！！」

4月より遊び人から賢者になるために冒険に旅立つことになりました。(ドラクエⅢ参照)

「吉野川で遊ぼう！」は、冒険先から書いてもいいよ。

とのことなので、今年度もどんどん遊びます！

吉野川歴史探訪 覚円騒動〔前編〕(明治21年7月洪水)

お疲れ様です。別宮川三郎です。新年度が始まりました。徳島河川国道事務所も人事異動により多くの職員が、赴任地へ旅立ちましたが、新たに着任された方もいます。別宮川三郎が異動したかどうかは明かせませんが、引き続きよろしくお願ひします。

さて、明治21年7月に発生した洪水により石井町西覚円の吉野川堤防が決壊し多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。被災住民の怒りの矛先は、次第に内務省や徳島県の河川工事に対して向けられます。そして、徳島県議会でも大問題となり、やがては、内務省の工事が中止になります。この一連の騒動は「**覚円騒動**」と呼ばれています。

今月号は「覚円騒動」の前編として、騒動の原因となった明治21年7月洪水による水害を探訪しましょう。

1. ようやく始まった国と徳島県の河川改修。しかし、堤防工事は遅々として進まず、沈床工には誤った噂が広まった。

Our よしのがわ3月号で「ハケ村堰訴訟」を探訪しました。訴訟の原因は、明治8年頃の堤防整備によりハケ村堰が埋め立てられたこと。また、覚円付近の川幅が狭くなり上流地域の水害リスクが高まったことに端を発したものでした。訴訟は大審院で住民側の勝訴になりましたが、現地の堤防が撤去されることはなく明治13年頃に曖昧に終わったとされています。

その後、国(内務省)と徳島県による本格的な河川改修工事が始まり、ハケ村堰訴訟の原因となった覚円堤防も、徳島県が狭窄部の堤防を撤去し引堤により川幅を約320mから約650mへ拡げることにしました。このため、徳島県は西覚円村の光明寺の一室に土木出張所を設けて堤防工事に着手しましたが、工事の作業員があまり集まらなかったことや用地交渉が難航し工事は遅々として進みませんでした。

また、国(内務省)では、舟運及び流路固定のための低水工事として、覚円堤防の前面に徳島県初の「沈床工」を整備することになり、明治18年2月から工事に着手しましたが、航行していた舟筏が「沈床工」に接触して、転覆したり、破壊、沈没するという事故が相次いで起こるようになったと言われています。吉野川の舟筏業者は「沈床工」が航行の妨げになると主張したため、「**内務省の沈床工は舟筏を沈める恐ろしいもの**」という誤った噂が広まっていったのです。



写真1: 水制工〔吉野川右岸(南岸)、覚円付近〕

内務省土木局吉野川出張所は、明治18年(1885)2月から、舟運の便と流路を固定するための低水工事に着手したが、覚円騒動により沈床工は撤去され、その後の工事で徳島県により施工された水制工が、今も残っている。

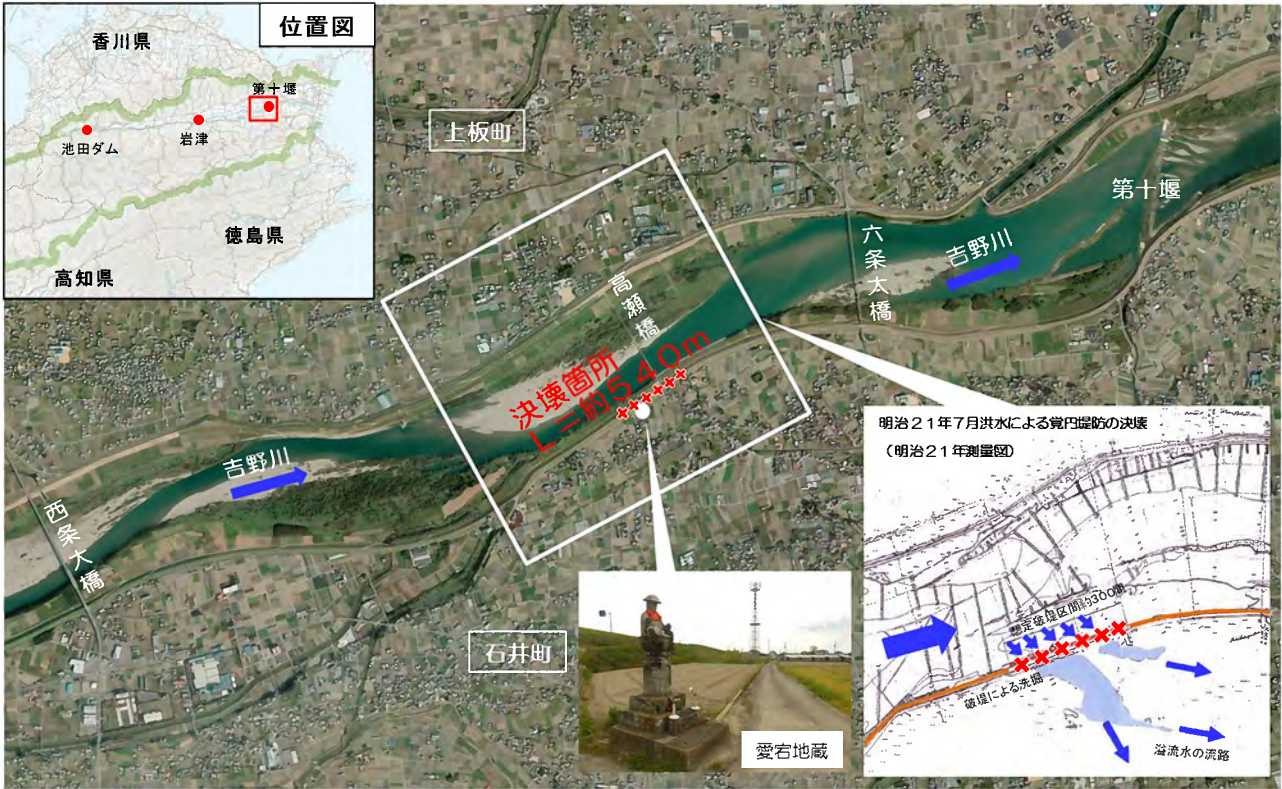


図1：航空写真（堤防決壊箇所）

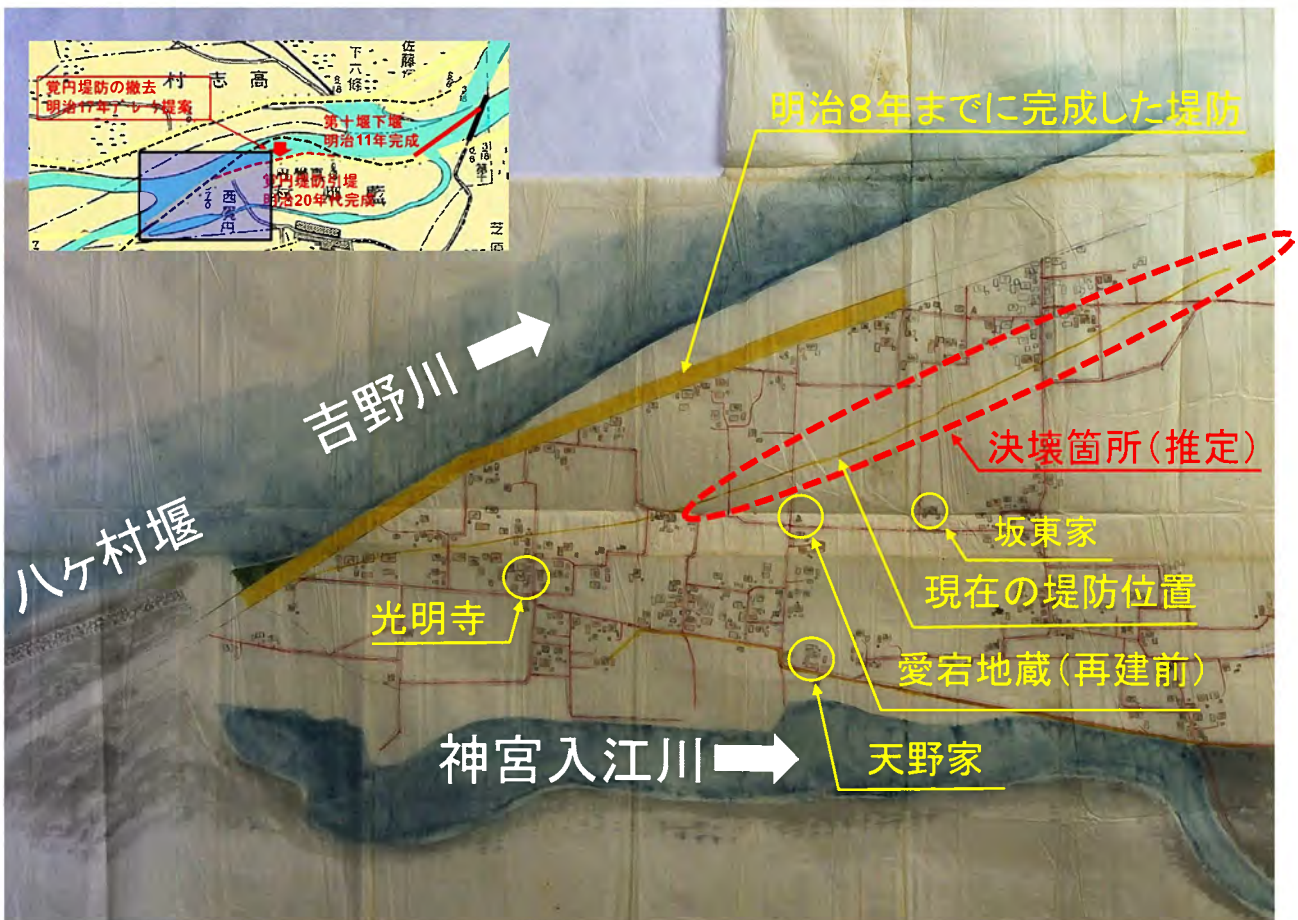


図2：天野家絵図



写真2：光明寺（石井町藍畑）

2. 二度にわたる堤防決壊による大惨事

工事着工から3年後の明治21年7月31日洪水による大惨事が発生します。この時の様子が、普通新聞や阿波近古史談が伝えていいますので概要を紹介しましょう。

7月31日午前11時頃になり水位が高まり、徳島県土木課の担当職員らは堤防のうえで、水防の用意に着手しました。しかし、高瀬の渡し船の港（現在の高瀬橋）から上流約360mの堤防は工事中であり、その高さは計画高より2m程度低く、芝付けも未了で堤防の形はあっても砂利だけでした。このため、水勢が強まるにつれ、あちこちから水が浸入し、同時に堤防の土砂を洗い流しはじめます。徳島県土木課の担当職員らは決壊を恐れて、堤防の内側に杭を打ち、畳を結びつけ懸命に水防活動を行います。

一方、徳島県の出張所であった坂東氏宅に保管している御用書類や金庫などを持ち出すため、所員が、泥水の中を辛うじて出張所に戻り作業を行いますが、水位がさらに上昇したため、徳島県の所員、坂東家の関係者の人々18名が納屋の屋根に這い上がりましたが、遂に堤防が決壊し、坂東家の藍の寝床が流され18名が避難した納屋にぶつかり二つに割れて、一方は見る見る流出し、一方の18名が乗る納屋も危うく沈みかけますが、坂東家に植えてあった「もちの大樹」に何とかよじ登り、その様子は「人間の鈴なり」に見えたようです。

また、「もちの大樹」は、常々から坂東家主人自慢の数百年を経た大樹であって、万が一、洪水に家が流されてもこの樹に登れば助かると言っていたほどです。18名の人々は、泥海のなか「もちの大樹」を命の手綱として5時間ほど辛抱します。

しかし、堤防の切れ口から矢を射るごとく流れてきた家屋が、人々が命を託した「もちの大樹」に衝突すると同時に泥海に倒れ、樹も人も流されてしまいました。流された人々のうち、民家の石垣や塀に流れ着いた人々は何とか助かりましたが、徳島県出張所員、坂東家の関係者ら多くの尊い命が失われました。堤防で水防を行っていた人たちは、東方の坂東家の「もちの大樹」に多数の人が登っていることを確認していましたが、助ける手段もなく途方に暮れていました。堤防上で一夜を明かし、周りが明るくなりかけた頃、東方を見れば「もちの大樹」も人々も見えず杳然としたとされています。

この洪水による堤防の決壊幅は約540mに及び、氾濫した洪水は、西覚円、東覚円、高畑中州を流下し、人家78戸が流され26名が亡くなり、560余名が家屋を失い路頭に迷うという大惨事が発生しました。

さらに、約1ヶ月後の9月11日には、またも洪水となり、家屋5戸が流され、7月31日の洪水で家を流された人たちの仮小屋41戸が流出するなどの被害が発生しました。

【井内恭太郎氏と覚円堤防】

井内恭太郎氏は、安政元年(1854)、阿波市市場町に生まれ、徳島県属となり、後に海部、麻植、美馬及び名西郡長となり、退官後は名西郡水力電気株式会社を設立し事業家の道を歩み昭和9年(1934)に80歳で亡くなります。

明治30年(1897)に麻植郡長に就任した井内氏は、徳島県屈指の大農業用水である吉野川南岸の「麻名用水」の構想を発表するとともに、明治38年(1905)には「紀年麻名普通水利組合」が結成され管理者として就任し、明治45年(1912)に完成させます。また、名西郡長として、吉野川北岸の「板名用水」の建設にも努力します。このように、藍作から米作への転換に向けて下流域の用水路を整備した井内氏の功績は大きいものでした。

しかし、それ以前30歳代の井内氏は、徳島県庁の土木出張所の主任として覚円堤防の引堤を担当しており、堤防の決壊に遭遇します。この時、井内氏は主任として出張所に残り書類などを持ち出す準備をしていましたが、見る見るうちに増水したため、坂東家の「もちの大樹」に誰もが先を争い登りますが、責任者である井内氏は一番最後に登りました。しかし、前述のように「もちの大樹」は倒れ泥海に投げ出され流されます。井内氏はここで死ぬのは残念だとの意識が閃き、両手で波を切ったところ、幸いに流下してきた家屋に取り付き坂東家の主人とともに屋根に這い上がり救助船に助けられます。井内氏がもし、この時、助からなければ「麻名用水」などの用水路整備が大幅に遅れたかもしれません。



写真3：井内恭太郎
(1854-1934)



写真4：開設当時の麻名用水

これらの水害に激高した覚円村住民は、「今回の西覚円堤防の決壊は天災ではなく人災だ」と考えます。つまり、徳島県の堤防工事が遅れたことに加えて、国(内務省)が施工した「沈床工」が水害の原因であると主張したのです。**住民は救済を求めて県庁へ強訴するという行動に出ます。**これが、いわゆる「覚円騒動」であり、来月号では後編として、騒動の内容・顛末などを探訪しましょう。

～水害を我がこととしてとらえる～

水防災意識社会再構築ビジョン協議会構成機関の取り組み紹介【鳴門市】

「Our よしのがわ」では連載シリーズとして、吉野川沿川の14市町を対象に市町村長の減災に対する考えや、取り組み内容をご紹介します。今回は、泉鳴門市長に聴きました。

（鳴門市位置図）



（鳴門市）

マスコットキャラクター

- ※ 平成29年3月末現在
- 人口 58,999人
 - 世帯数 26,392世帯
 - 面積 135.46km²



うずひめちゃん うずしおくん 市の花 ハマボウ 市の木 モチ



本市は、徳島県の東北端に位置しており、鳴門海峡をへだてて淡路島に対峙し、本州と結ぶ四国の東玄関をなしています。恵まれた自然や歴史、文化などの観光資源を有機的に結んだ広域観光誘致事業を展開するとともに、全国的にも高い評価を受ける「鯛」「ワカメ」「さつまいも」「塩」など、数多い地域特産物の供給基地としての体制づくりを進めています。

（鳴門市長の減災に対する考え）



鳴門市長
いずみ りつ彦

本市には、吉野川水系河川である、市内南部を流れ紀伊水道に注ぐ「旧吉野川」と、市中心地を流れる「新池川」があります。このような地理的特性から、台風襲来による大雨時には、河川氾濫による災害が危惧されます。実際、平成16年の台風23号では記録的な豪雨となり、河川下流の高潮の影響と大雨による水面の上昇で河川の水があふれ、多数の方が避難所に避難されました。幸い人的被害はありませんでしたが、災害救助法が適用されるなど、本市における近年の風水害の中では特に大きな被害を受けました。

こうした災害の教訓を基に、本市では平常時より住民個人（自助）、地域住民や企業（共助）、行政（公助）が互いに連携し、積極的に防災・減災対策に取り組んでおり、災害時にはこれを活かし、被害を最小限に抑えることができると考えています。

また、防災・減災対策の行政の役割としては、「危機意識の高揚に向けた啓発活動」と「情報発信の強化」が重要であると考えており、現在、これらに関連する取り組みを進めています。

まず、「危機意識の高揚に向けた啓発活動」については、災害発生時に市民の皆様が適切な避難行動をとることができるよう、ハザードマップの作成・周知に努めております。その作成にあたっては、カラーユニバーサルデザインの認証を取得することとしており、色覚の個人差を問わずに誰でも正確な情報を入手し、地域の危険性を正しく理解することができるよう、工夫を行って参りました。

次に、「情報発信の強化」については、市内全域に迅速かつ的確に緊急情報を伝達することができるよう、防災行政無線に電話、メール、FAXといった様々な情報伝達手段を連携させ、情報発信の多様化を図って参りました。

さらに、平成27年には地元ケーブルテレビ会社と「防災に関する包括的連携協定」を結び、本市から発信する避難勧告等の緊急情報をケーブルテレビの番組画面上に、テロップにより表示するなど、企業と連携した情報伝達の取り組みも行って参りました。

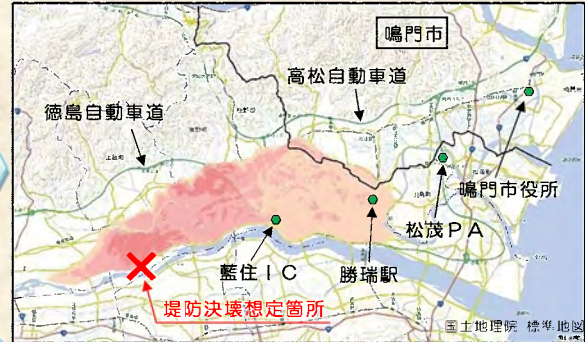
今後についても、市民の皆様が災害発生時に、より正確な情報を入手することができるよう対策を講じるとともに、的確な避難行動を主体的に行っていただけるよう啓発に努め、災害に強いまちづくりを進めて参りたいと考えています。

(洪水氾濫シミュレーション)

平成 16 年 10 月に発生した台風 23 号の 2 倍の雨（想定最大規模降雨）が降った時に西条大橋～高瀬橋間（上板町高瀬）の堤防が決壊したら・・・

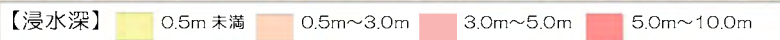
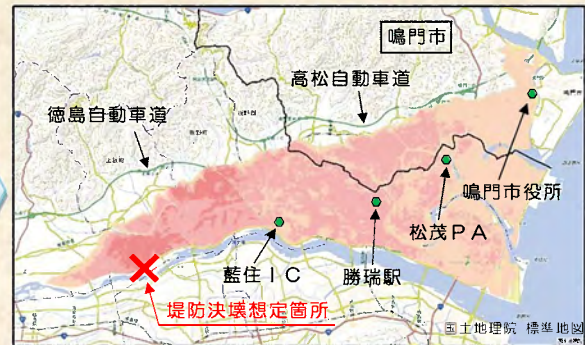
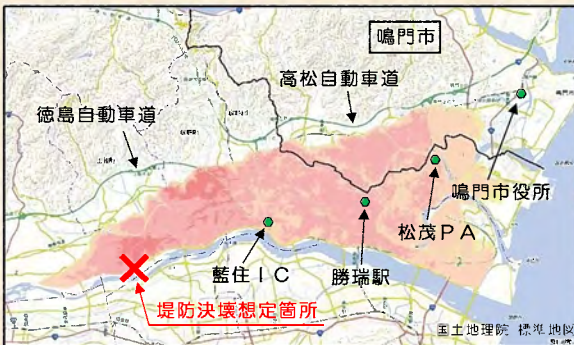
堤防決壊 1 時間後の浸水想定状況

堤防決壊 5 時間後の浸水想定状況



堤防決壊 10 時間後の浸水想定状況

堤防決壊後約 16 時間で最大浸水



(鳴門市における取組事例)

1. ハザードマップの改良と周知

本市は、市民の危機意識の高揚に向けた啓発活動の一環として、吉野川・旧吉野川浸水想定区域図及び徳島県管理河川である新池川の浸水想定区域図等を記載したハザードマップを作成し、平成 27 年 10 月に市内全戸に配布し、周知を図っております。今後は、想定最大規模降雨における洪水を対象に、ハザードマップを改良し周知を図ることとします。

2. 洪水リスクの周知・啓発

吉野川水系吉野川・旧吉野川・今切川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）について、自主防災会をはじめとした防災関係機関を対象に説明会を実施し、洪水リスクの周知・啓発に努めています。

平成 28 年 6 月に地域の自主防災体制の強化を目的に鳴門市自主防災会連絡協議会で、また、水防団の育成を目的に新団員等訓練の場で、さらに 7 月には、災害リスクを市役所全体の問題として捉えるため、市職員を対象に洪水リスクについて説明会を実施しました。



消防団を対象とした説明会



市職員を対象とした説明会

吉野川講座 （そうだったのか！？河川管理～河川巡視編～）

○河川巡視とは？

河川巡視とは、定期的・計画的に河川を巡回し、河川の異常や変化、不法行為等を把握することを目的としています。河川巡視で行う主な内容は、河道及び河川管理施設等の状況の把握、河川区域等における違法・違反行為の発見、河川空間の利用に関する情報収集、河川の自然環境に関する情報収集を対象としています。

○河川巡視の方法は？

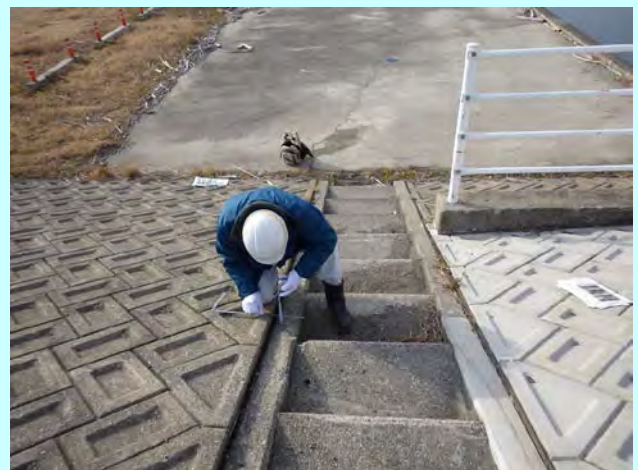
平常時に行う河川巡視は、あらかじめ設定した巡視項目について管理区間を全域にわたり巡視を行う一般巡視と、巡視項目、目的、場所等を絞り込んだ目的別巡視に分類されます。なお、目的別巡視は、不法係留等の状況、河川の水質状況、ゴミ等の投棄の有無、河川敷地の利用状況等について、より詳しく状況を把握する場合に行います。

○河川巡視の内容は？

河道及び河川管理施設等の河川巡視は、河岸、河道内の堆砂、樹木群、堤防、護岸・根固工、堰・樋門等について、目視により確認できる変状を発見するために行うものです。



堤防調査（陥没等の異常の有無を確認）



護岸調査（ひび割れ等の異常の有無を確認）



河道調査（土砂の堆積状況を確認）



管理用道路点検（簡易な補修を実施）

違法・違反行為発見のための河川巡視は、河川区域、河川保全区域において、土地の占有や工作物の設置状況等に関して、違法・違反行為がないか確認するために行うものです。



砂利採取状況の点検（掘削深さを確認）



不法行為の点検（野焼き禁止看板の設置）

河川利用の状況を把握するための河川巡視は、水面や河川敷で行われる日常の河川の利用状況を確認するために行うものです。



河川敷利用状況の確認



河川清掃活動状況の確認

自然環境の状態を把握するための河川巡視は、瀬・淵・みお筋の状態、砂州の位置、魚類等の産卵場となる河床の状況、鳥類の繁殖場となる河道内の樹木の状況、樹木の洪水流への影響、魚道の状況、外来植生の状況等について確認するために行うものです。



河川水質の確認（簡易水質分析を実施）



水質事故対応（吸着マットを設置）

吉野川・那賀川合同総合水防演習 ～5月21日に開催します～

◇国土交通省、徳島県、県内市町村、水防団などをはじめとする関係機関は、台風等での水害発生時において地域を守る水防活動や、水害の発生を未然に防止するための活動を行っています。

◇これらの機関が連携し、「水防活動の実践、情報の伝達、人命救助」を中心とした訓練を行うとともに、洪水・高潮による災害に対する意識を高め、身近な問題として認識してもらうことを目的に、平成29年度吉野川・那賀川合同総合水防演習を開催しますのでお知らせします。

記

開催日時：平成29年5月21日（日） 9：00～12：00

開催場所：徳島市民吉野川運動広場（徳島市住吉4丁目地先）

主催：平成29年度 吉野川・那賀川合同総合水防演習 実行委員会
 国土交通省四国地方整備局、徳島県、徳島市、鳴門市、小松島市
 阿南市、吉野川市、阿波市、石井町、那賀町、松茂町、北島町
 藍住町、板野町、上板町

※演習では水防団による堤防の被災に対応する水防工法の訓練やヘリコプターによる救助訓練などの水防・避難・復旧・救出に関する様々な訓練を行います。

※見学者の皆さんが参加できる土のうづくり、ロープワーク、トンネル点検車の乗車体験や土石流3Dシアター体験などもあります。



トンネル点検車の乗車体験



土石流3Dシアター体験



心を一つに、地域を守る



平成29年度

吉野川・那賀川合同 総合水防演習

5.21日
9:00—12:00

入場無料
雨天決行
(ただし洪水時は中止)



会場
徳島市民吉野川運動広場
徳島市住吉4丁目 地先(吉野川大橋下流 南岸河川敷)

[お問合せ] 国土交通省 四国地方整備局

徳島河川国道事務所

徳島県徳島市上吉野町3丁目35 窓口:河川調査課
TEL(088)654-2211(代) FAX(088)654-9613

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

那賀川河川事務所

徳島県阿南市領家町室ノ内390 窓口:調査課
TEL(0884)22-6461(代) FAX(0884)22-7062

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakagawa/>

[主催]平成29年度 吉野川・那賀川合同総合水防演習実行委員会

国土交通省四国地方整備局/徳島県/徳島市/鳴門市/小松島市/阿南市/阿波市/石井町/那賀町/松茂町/北島町/藍住町/板野町/上板町

[後援] 全国水防管理団体連合会/公益社団法人 日本河川協会/一般財団法人 河川情報センター/一般社団法人 四国クリエイト協会/公益財団法人 徳島県消防協会/徳島新聞社/朝日新聞 徳島総局/共同通信社 徳島支局/建通新聞社 徳島支局/産経新聞社 徳島支局/時事通信社 徳島支局/日本経済新聞社 徳島支局/毎日新聞 徳島支局/読売新聞 徳島支局/日刊建設工業新聞社 四国総局/日刊建設通信新聞社 四国支局/NHK徳島放送局/四国放送株式会社/ケーブルテレビ徳島株式会社/国府町農事放送農業協同組合/株式会社 テレビ鳴門/株式会社 東阿波ケーブルテレビ/徳島県南メディアネットワーク株式会社/株式会社 ケーブルテレビあなん/日本中央テレビ株式会社/株式会社 ケーブルネットおん/阿波市ケーブルネットワーク/石井町有線テレビ協同組合/那賀町ケーブルテレビ/株式会社 ひのきエーアイテレビ株式会社/上板町有線テレビ株式会社/株式会社 エフエム徳島/株式会社 エフエムびざん

[参加機関] 四国地方整備局/徳島地方気象台/国土地理院 四国地方測量部/陸上自衛隊 第14旅団司令部/陸上自衛隊 第15普通科連隊/陸上自衛隊 第14飛行隊/徳島県警察本部/徳島県警察署/徳島県/鳴門市/小松島市/阿南市/吉野川市/阿波市/石井町/那賀町/松茂町/北島町/藍住町/板野町/上板町/徳島市消防団/鳴門市消防団/吉野川市消防団/阿波市消防団/石井町消防団/那賀町消防団/松茂町水防団/北島町水防団/藍住町水防団/板野町消防団/上板町消防団/徳島市消防団/鳴門市消防本部/小松島市消防本部/阿南市消防本部/徳島中央広域連合消防本部/名西消防組合消防本部/那賀町消防本部/板野西部消防組合消防本部/板野西部消防組合消防本部/北島町 太朗八須団地自治会自主防災会/板野町自主防災組織協議会/NPO法人日本防災士会/徳島県支部/関西広域連合/徳島県立中央病院/日本赤十字社 徳島県支部/徳島県赤十字ハイク奉仕団/国立高等専門学校機構 阿南工業高等専門学校/徳島市城東小学校/一般財団法人 河川情報センター/一般社団法人 徳島県建設業協会/一般社団法人 徳島県トラック協会/一般社団法人 四国クリエイト協会/一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 四国支部/西日本電信電話株式会社 徳島支店/株式会社 NITTFIELDテクノ/四国支店/株式会社 NITTDOMO 四国支店 徳島支店/株式会社 ドコモCS四国 徳島支店/四国電力株式会社 徳島支店/株式会社 西電工 徳島支店/株式会社 大塚製薬工場/社会福祉法人 白寿会(白寿園 仙寿園)/四国地方防災エキスパート

プログラム

- 9:00 開会式
- ↓
- 9:30 演習開始
- 9:30 水防工法実施訓練
- 準備工
 - 樋門操作訓練
 - 河川巡視①
 - 水防工法実施訓練
 - 堤防斜面の崩れ対策工
 - 避難訓練
 - 河川巡視②
 - 水防工法実施訓練
 - 漏水対策工
 - 情報収集訓練(県警バイク)
 - 人命救助訓練(県警救命艇)
 - ライフライン復旧訓練
 - 河川巡視③
 - 水防工法実施訓練
 - 越水対策工
 - 浸水防止用ゲート閉門
 - 現地救護所開設
- 10:50 堤防決壊
- 緊急災害対策派遣訓練
 - 災害調査(国交省ヘリ)
 - 救護訓練
 - 被災者搬送訓練
 - 医療資機材輸送訓練
 - ドクターヘリ被災者搬送訓練
 - 内水排除訓練
 - 人命救助訓練(陸自ヘリ)
 - 航路啓開訓練
 - 防災用マルチコプターによる空撮調査
- 11:00
- 水防工法実施訓練
 - 緊急対策工
 - 道路啓開訓練
 - 救援物資輸送訓練
 - 被災状況調査
- ↓
- 11:45 閉会式

水防工法実施訓練

準備工



杭ごしらえ



大型土のう作り

堤防斜面の崩れ対策工



シート張り工



木流し工

漏水対策工



月の輪工



釜段工

越水対策工



積み土のう工



荒締切工

緊急対策工

ライフライン復旧訓練



特設公衆電話設置訓練



携帯電話回線復旧訓練



配電線復旧訓練

国交省災害出動訓練



内水排除訓練



航路啓開訓練



道路啓開訓練

情報収集・災害調査訓練



情報収集訓練

人命救助・救護訓練



人命救助訓練(陸自ヘリ)



救護訓練

救援物資・医療資機材輸送訓練



救援物資輸送訓練

体験・展示・PRコーナー

9:00~12:00

PR・展示コーナーでは、防災に関するパネルや車両、徳島県治水及び利水等流域における水管理条例のパネルなど展示しています。また体験コーナーでは、ロープワークや土のう作りなどの水防工法の体験のほか、特殊車両を使った地震体験や降雨体験などを行うことができます。



降雨体験



地震体験



土のう作り体験



ロープワーク体験



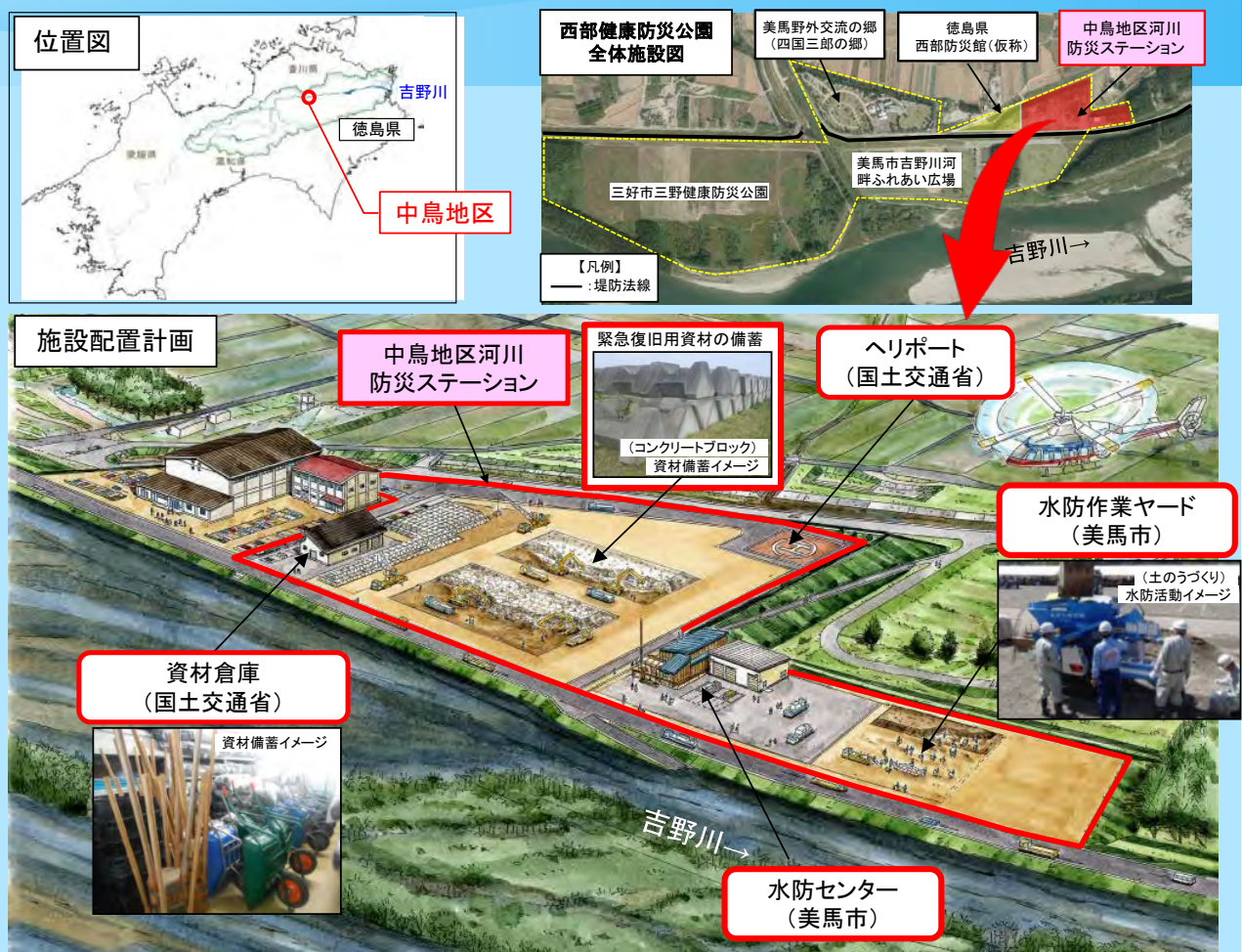
家でできる水防工法体験



土石流3Dシアター体験

中鳥地区河川防災ステーション（美馬市） の整備計画が承認されました！

- ◇美馬市中鳥地区に河川防災ステーションを整備する計画が、国土交通省水管理・国土保全局長に、3月27日承認されました。
- ◇河川防災ステーションは、洪水時の水防活動や災害が発生した際の緊急復旧活動に必要な資材であるコンクリートブロックや土砂を備蓄することができるとともに、ヘリポートも整備される予定です。
- ◇また、平時には水防訓練などを通じた防災啓発や防災教育の場としての活用や、レクリエーションの交流拠点として活用されることを目指しています。
- ◇既存の石井地区河川防災ステーションが下流部を受け持ち、中鳥地区河川防災ステーションが上流部を受け持つことで、洪水時により迅速な対応が可能となります。
- ◇徳島河川国道事務所と美馬市では、今後連携してこの整備計画に基づいた施設整備を行っていくこととしています。



※現時点のイメージです。今後変更となる可能性があります。

河川植生の敵！アレチウリ駆除作戦

【吉野川上板出張所】

近年、吉野川には、北アメリカ原産の“アレチウリ”という特定外来生物※が至る所に侵入しています。アレチウリは、つる性の一年草で、河川敷や畑、荒地や道路端などの日当たりの良い場所を好んで群生します。5月中旬から発芽して、暖かくなると急速に成長して他の植物に覆い被さるように広がっていくことで、他の植物の成長を妨げます。アレチウリは、7月～10月に花が咲き、とげの付いたコンペイトウのような形の果実を大量に作り、種子は土中で冬を越して翌年にはさらに群生範囲を拡大していきます。



写真-1 河川敷に広がったアレチウリ



写真-2 アレチウリの果実

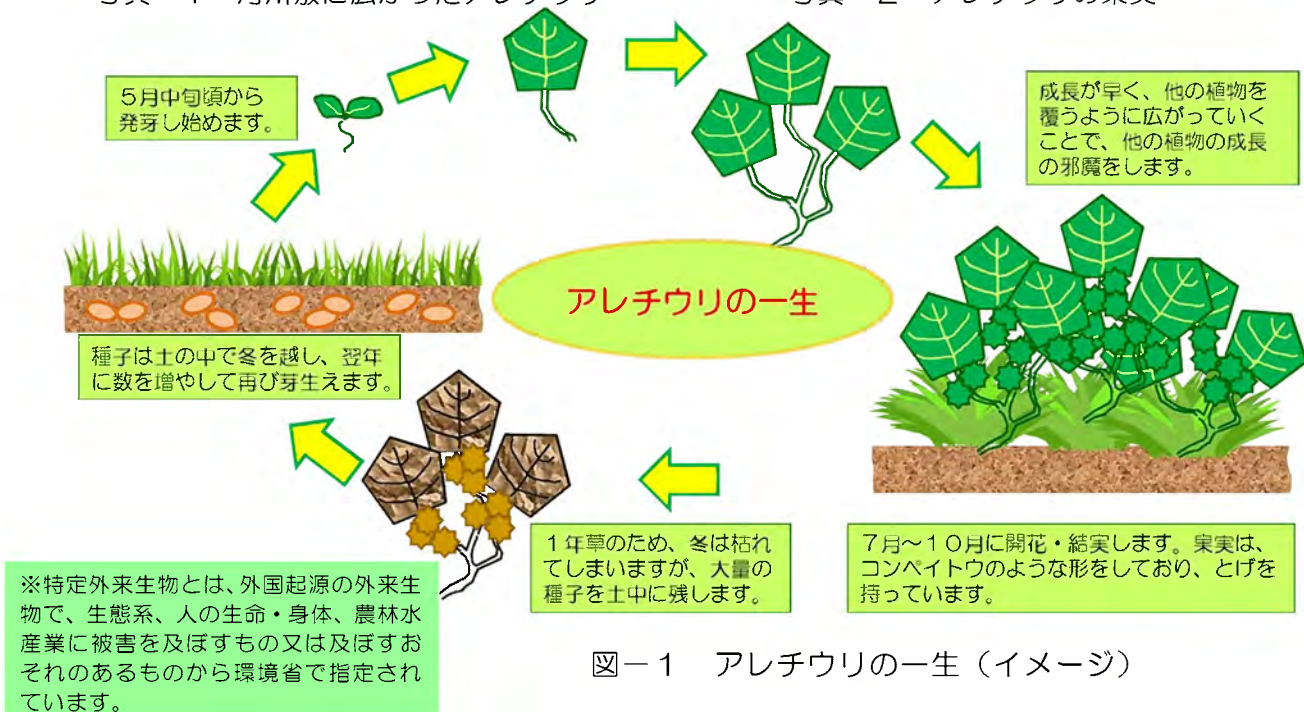


図-1 アレチウリの一生（イメージ）

板野郡上板町高磯から高瀬の堤防には、平成26年度までアレチウリは確認されていませんでしたが、平成27年度に突如、約2 kmの堤防法面をアレチウリが覆ってしまいました。この地区には、従来から河川敷にはアレチウリが繁茂していましたが、平成26年度の洪水時に流木と一緒にアレチウリの種子が法面に漂着し、それが一斉に発芽したと考えられます。

特定外来生物であるアレチウリを処分する場合、種子が刈草に混入していることから、他への拡散を防止するために全て焼却する必要があります。そのため、この状態を放置するとアレチウリが急速に拡大することで、堤防点検時の障害になるほか、刈草の処分費が増加するなど、河川管理上の支障となります。そこで、アレチウリがこれ以上拡大することを防ぐために、“アレチウリ駆除作戦”を実行しました。駆除方法は、アレチウリの種子がこれ以上増えることを防止するために、種子がつき始める8月迄に一度除草をすることにしました。



写真-3 堤防に侵入したアレチウリ

写真-4 アレチウリの人力除草



写真-5 種子がつく前の除草作業

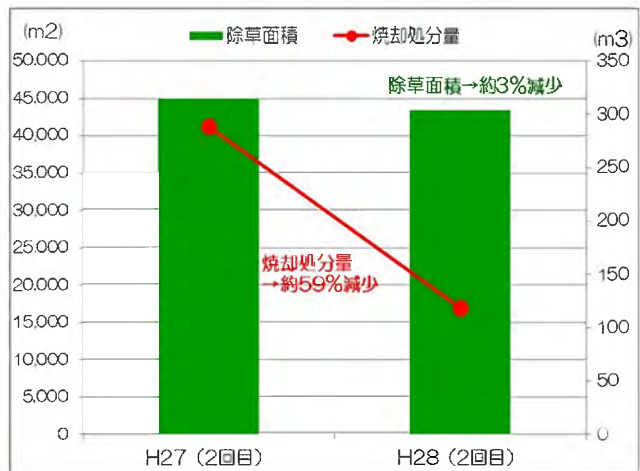


図-2 H27とH28の比較(2回目の除草)

当該地区は、11月下旬頃に2回目の堤防除草を実施しますが、その際に実施したアレチウリの除草面積と処分量を比較しました。その結果、平成28年度の除草面積は若干減少しましたが、処分量については平成27年度よりも半分以下に抑えることができました。

一般的に、アレチウリの種子は耐久性が悪く、土中で何年も種子が生き続けることは難しいと考えられていることから、種子の生産を増やさないよう種子が付く前の除草を繰り返し実施すれば、数年以内には駆除が完了すると考えています。

第10回とくしまマラソンに参加して



もうすぐスタート（県庁付近）

去る3月26日（日）に開催された第10回とくしまマラソンに参加してきましたのでレポートします。とくしまマラソンの参加は、私自身、今回で7回目となりほぼ毎年参加しています。第1回大会は4千人程度の参加者だったのが本大会では3倍の約1万2千人の参加者に増える人気の大会となっています。

コースは、徳島県庁前をスタートし、吉野川大橋を渡り吉野川北岸を西に進み、西条大橋で折り返し、吉野川南岸を東に進み、田宮の徳島市陸上競技場にゴールする42.195kmです。全国有数の規模を誇る吉野川の雄大な景色を眺めることができ、地域の住民の方や給水所のボランティアの方の応援を受けることができ気持ちよく走ることができるコースとなっています。



みんなまだ元気いっぱい（吉野川大橋付近）



折り返し地点



妖怪も応援！！

今年は、少し肌寒いぐらいの天候で風も弱かったためマラソン大会のコンディショニング的には良い天候でした。いつもながら30km以降は、疲れからペースが落ちましたが、多くの応援と給水のおかげで無事走りきることができました。ゴール地点では、阿波踊りでの出迎えや参加賞に徳島名物のフィッシュカツがもらえます。



トマトと特産のフィッシュカツでエネルギー補給

全国を代表する河川である吉野川の雄大な景色と数多くの心のこもった応援が魅力のたくしまマラソンは、全国的にも評価が高い大会です。大会までにそれなりの準備と練習が必要ですが、初心者の方も制限時間が7時間で、完走率が毎年90%以上であるため、参加しやすい大会となっています。徳島・吉野川の魅力が感じられる大会ですので、ぜひ挑戦してみてくださいはいかがでしょうか？

(井上博義)



FINISH ゴォーール！！

※ちなみに、今回投稿いただきました井上さんのタイムは、2時間42分37秒という素晴らしいタイムでした。お疲れ様でした。

地域コミュニティの活性化と防災力を高めよう！

～【吉野川流域講座】漏水対策工事の現場見学会を開催～

阿波市阿波町の岩津地区では、地域コミュニティの活性化と防災力を高めるために、「地域活性化 岩津大ナマズクラブ」という住民グループが、ウォーキングや工事見学、夏祭りなどのイベントを定期的で開催しています。今回は、岩津地区で漏水対策工事が施工中であることから、地区の子供や保護者等、約40名の参加により、3月19日に工事現場の見学会を開催しました。

近くの公民館で工事の概要や堤防決壊が発生する理由をパネルで説明した後、現場に移動し、水槽の中に堤防をイメージした砂の斜面を作り、洪水で川の水位が上昇していく状況を再現するために、子供達にじょうろで水を入れてもらい、だんだん堤防の法尻から水がしみ出し、法面に亀裂が発生・拡大していく様子を観察してもらいました。最後に、工事現場に移動し、完成間近の工事の状況を見学して頂きました。

大ナマズクラブの吉田勝巳会長は、「災害が発生した時は、地域住民が助け合いながら行動することが大切。ただ、最近では、近所付き合いや地域と学校とのつながりも少なくなっていることから、このようなイベントを通して、地域住民の交流を図ってもらおうとともに、防災について興味を持ってほしい。」と力説されておりました。今後も地域住民の皆様の防災に関する取り組みについて、支援していきたいと考えています。



「見学会の概要を参加者へ説明」



「これが工事で使う遮水シートです。」



「水槽に水を入れて洪水を再現中！」



「漏水で堤防にひび割れが発生しました！」

「Our よしのがわ 恵みの川 されど暴れ川」 平成28年度四国地方整備局優秀広報表彰受賞！

四国地方整備局の各部局・各事務所で取り組んでいる広報活動の中で、我が徳島河川国道事務所が発刊している河川関係広報誌「Our よしのがわ 恵みの川 されど暴れ川」が優秀広報表彰を受けました。

平成28年6月に創刊以来、今号でVol.11となります。9名の編集委員と事務局2名体制で毎月2回編集会議を開催し記事を検討しています。



編集会議の様子



掲載記事は、「吉野川お散歩紀行」以外職員が執筆しており、編集会議では、翌月号の掲載記事の検討、発刊号の表紙やキャッチコピーの検討、掲載記事のチェックを行い、発刊を迎えます。毎月、掲載記事の掘り起こし等、毎月発刊に至るまでいろいろ苦労はありますが、今回の表彰と読者の皆様からいただく声を、毎月発刊の原動力にして今後も誌面充実に頑張っていきたいと思

ます。

愛読者の方々には、引き続きご愛読をお願いします。また、まだお近くに「Our よしのがわ」の存在を知らない方がいらっしゃいましたら、「こんな広報誌があるよ」と、ご紹介いただき愛読者の拡大に協力いただければ非常にありがたく思います。

なお、「Our よしのがわ」は印刷物だけでなく、徳島河川国道事務所ホームページで配信しております。

URL：<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/kouhoushi/kouhoushi.html>



書架に並ぶ
バックナンバー

吉野川 Diary

今月号いかがでしたか。
このコーナーでは誌面に掲載しきれなかった話題をお届けします。

阿波十郎兵衛屋敷で徳島の宝物を買う。

県外から来られたお客様にとって、お買い物も大きな楽しみのひとつ。今回、吉野川お散歩紀行で訪れた阿波十郎兵衛屋敷には、お土産選びに最適なセレクトショップが併設されているんですよ。

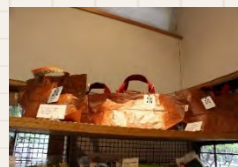
お話していただいた佐藤憲治さんや、スタッフのみなさんが選りすぐった品が並んでいます。吉野川から生まれたともいうべき、藍染めや、スジアオノリ、村人たちが人形芝居を披露した農村舞台のある那賀町や神山町の名産品も置かれています。食器や柿染めのおしゃれなバックもあり、観光客の方ばかりでなく、地元の方も楽しめそうです。

お散歩紀行でもご紹介しましたが、『じょうり』は、美しい宝石を意味する言葉。

このお店には徳島の美しい宝石、宝物を知ってほしい、そんな思いがあふれています。また、秋から冬には勝浦町のみかんも置かれていて、大人気だったそう。人形座の座員の方が作っているみかんだそうです。

そんなあたたかさもあるこのお店。

きっとお気に入りの逸品が見つかりますよ。



「Our よしのがわ」編集後記

最近3月に開花することが多くなった桜ですが、今年は平年より開花が遅れたことで、久々に入学式に子供たちを迎える桜を見ることが出来ました。表紙の美濃田の淵に咲く桜も、少し天気が悪かったのですが、吉野川の流れと見事なコントラストを見せています。やっぱり、桜はいいものですね。

読者の皆様、今月号いかがでしたか。「この記事が良かった。」「これもとりあげてほしい。」といったご意見がありましたら下記までお寄せください。(姫と祖)

〔発行〕；国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

〔編集〕；Our よしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL (088) 654-9175 (直通)

FAX (088) 654-9177

E-mail: skr-tokusa63@mlit.go.jp

HP アドレス <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>



【Our よしのがわ編集委員会】

- | | |
|--------|--------|
| ・西山 修 | ・入江 正利 |
| ・青木 研 | ・北川 誠純 |
| ・梶取 真一 | ・松坂 幸二 |
| ・浅田 聖一 | ・箸方 紀彦 |
| ・青木 朋也 | |
| ・安永 一夫 | ・松山 芳士 |